



いる秋吉社俊社長

高齢化を見据え、介護付きの旅行サービスを提供して

ヘルパーの処遇改善も目指す

前身は登別市で1907年(明治40年)に創業した老舗の「秋吉ホテル」。父を亡くした後、ホテルを畳み札幌に拠点を移した。世の中の役に立つ人間になれ。父の言葉を胸に、秋吉社長は「ビジネスと、誰もが幸せになれる社会という理想がイコールで結ばれるよう、日々挑戦です」と語る。

(高橋澄恵)

札幌市中央区南1西2の4
1・第5藤井ビル8階。☎011
1500万円。従業員10人。ホームページあり。

した「夢たびヘルパー」の存在だ。登録制度で、介護施設などで現役で働く10人が在籍。「大切な旅行に同行させていただく」の精神で大浴場などの介助技術はもちろん、接客マナーや旅行業の知識も磨く。温泉旅行や孫の結婚式への出席など、希望に応じた旅程を専属のプランナーが

事業のもう一つの目的に、介護に携わる人たちの処遇改善を掲げる。介護保険制度とは別に、スキルアップによってより高い賃金を得る仕組みをつくり、「若

利用者は徐々に増え、16年は63人、今年は9月中旬までで126人と広がりをみせる。問い合わせは全国から寄せられれば

作成。安心して当日を迎えるよう、ヘルパーは必ず事前に自宅に出向き、本人や家族と面談する。

価格は、ヘルパーの旅費も含まれるため一般的な旅行商品の約3倍と決して安くなく、1年目の利用者はたった7人。「もうかる商売ならとっくに大手旅行会社がやっているはず」。当初はそんな厳しい言葉をかけられたこともあった。

秋吉社長(36)は語る。

不動産業や関連会社を通じて介護施設運営を手掛ける傍ら、2015年6月に「夢たび」を始めた。きっかけは高齢女性の「温泉に行きたいが、旅先でまで家族に迷惑をかけたくない」との言葉だった。要介護者が安心して旅行できるサービスを探したが、なかなか見つからず、「仕組みが必要では」と思い立った。

特徴的なのは、幅広いノウハウを習得した。要介護者が安心して旅行できるサービスを探したが、なかなか見つからず、「仕組みが必要では」と思い立った。

秋吉社長(36)は語る。

不動産業や関連会社を通じて介護施設運営を手掛ける傍ら、2015年6月に「夢たび」を始めた。きっかけは高齢女性の「温泉に行きたいが、旅先でまで家族に迷惑をかけたくない」との言葉だった。要介護者が安心して旅行できるサービスを探したが、なかなか見つからず、「仕組みが必要では」と思い立った。

秋吉=札幌市

ヘルパーの処遇改善も目指す

介護付き旅行を企画